

CBC NEWS

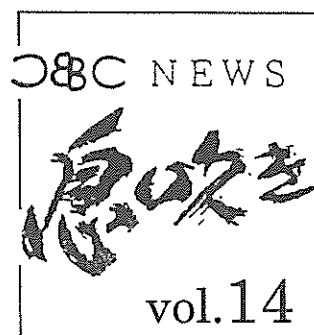


新しい時代に向けて

終了し、すでに後期が始まりました。学生たちは気分も新たにされ、日々の学びと訓練に励んでいる。

すがすがしい秋空が広がる駒込。例年ならば、池の周りにびっしりと落ち葉が見られる頃だが、今年はチャペル・図書館棟と宿泊棟の建築風景に様変わりしている。CBCは一九九九年前期が

四月には宣百ホールにおける最後の入学式が行われ、十二名の新入生を迎え入れた。旧男子寮・女子寮に入寮したのも束の間、一週間後には引越しが徐々に行われ、四月末に旧寮は解体された。今ではそれぞれの跡地に建築中のチャペル・図書館棟と宿泊棟が建設されており、その完成は来年三月の予定と



一九九九年度も折り返し地点を過ぎ、もう間もなく二〇〇〇年を迎えようとしている。この二十世紀最後の年を迎えようとしているCBCにとって、九十九年度はまさに変動の年であったといえるだろう。

間近である。新しい寮への引っ越しとそれに関わる作業も無事に済み、今学生たちは新しい寮での生活にすっかりなじんでいる。

また、四月末から開始された授業においても新しい変化が見られた。「ヨハネ福音書」「共観福音書」に堀川寛師、「ギリシャ語1・2」に能城一郎師、「キリスト教教育緒論」に綾部裕子師、「キリスト教音楽緒論」に三上かをり師と、四人の新しい先生方を迎えた。カリキュラムにおいても昨年度から新カリキュラムが導入され始め、聖書学専攻コースと牧会学専攻コースが設けられている。

二十一世紀に向けてCBCは今、内外共に変革の時を迎えている。様々な変化を感じながら、これからの新しい時代、さらに多くの献身者が起こされ、この駒込において多くの主の器が輩出されることを願ってやまない。

静心

十月から後期が始まった。授業が一新し、日曜の派遣先も変わった。入学して六ヶ月―まだ半年、もう半年、複雑な思いだ。

四月以降、生活や環境が一変し、この短い期間にあまりにも多くのことを体験した。そのためか、随分と長い間CBCにいるような錯覚さえ起こる。一方で、日々、自分の弱さや足りなさを思い知らされ、半年経ってもまだこれだけか、果たして成長しているのだろうか、自分に苛立ちさえ覚える。

まるで時間に追われるように毎日が過ぎていく。この狭い敷地内で、約三十名の学生が目まぐるしく生活している。時として、忙しさのあまり自分を見失いそうになる。そんな中、折り、神と交わる時間は、まさに喜び、平安の時だ。折れば折るほど、さらに折って神と近づきたくなる。みことば同様、折りこそ命の糧だと実感する毎日だ。

(N・U)

CBC NETWORK

・夏期研究科が七月六日から十七日まで開かれ、菊池和博師が新約釈義を、北野ジョイス師が異文化コミュニケーションをそれぞれ担当された。北野ジョイス師の通訳として、綾部裕子師がご奉仕された。

・神学校の夏期派遣実習が七月三日から八月二十二日まで行われ、学生たちは全国各地の教会に遣わされ、それぞれの派遣における恵みと証を抱いて八月三十日に帰寮した。

・夏期派遣実習期間に、駒込では事務所と校舎の改装工事が終了した。

・八月十二日に、残留の学生たちと教団本部の職員の方々が共に集い、弓山喜代馬師(九十九歳)と石原嘉宣師との誕生会を合同で祝った。

・九月六日から七日において、中央聖書学校理事と教授との懇談会が湯島会館で開かれ、良い交流のひとときが持たれた。

・海外宣教祈祷大会が九月八日に、中央聖書教会と合同で行

われた。海外宣教部長の佐々木正明師が講師として、メッセージを取り次いで下さった。

・前期終了の試験が九月二十一日から四日間に行われ、後期聖別式は十月五日に開かれ、熊谷福音キリスト教会牧師、渡辺正晴師が講師として御言葉のご奉仕をされた。学生たちは大きな恵みを受けて、後期始業に向けて新たなスタートを切った。

・十月二十五日に、恒例の秋の遠足が持たれた。秋晴れの中、教師四名と学生一同は東京・立川の昭和記念公園で楽しい時間を過ごし、十分にリフレッシュされた。

【CBC新聞部より】

「CBCニュース」に関するご感想がありましたら、どうぞお気軽にお聞かせ下さい。お待ちしております。

東京都豊島区駒込
三一一五―二〇
中央聖書学校 新聞部まで

お祈り下さい

チャペル・図書室・音楽練習室が、二〇〇〇年二月末に完成の予定です。皆様方の篤いお祈りと貴い捧げ物を心より感謝致します。この新しい建物のために左記の備品を捧げて下さる方々を求めています。新築されたチャペルで、二〇〇〇年度の卒業式と、入学式ができるようにお祈り下さい。一教会が既にチャペルの椅子一二〇脚を捧げて下さると約束して下さい。

●チャペルに

グラランドピアノ一台、電子オルガン一台、音響設備一式、椅子収納カート三台

●音楽練習室に

アップライトピアノ二台(できるならば消音式)、キーボード一台

●教室に

学生用机三〇台、教師用机三台、OHP三台

なお、学生達のためにウィンドウズ用ノートパソコンをお讀りくださる方があれば一報ください。

編集

後記

秋が来ず、一気に冬が来てしまった。夏服をしまいがちながら、季節の移り変わりの早さを感じている。恵まれた神学校の生活の中でも、涙する事は少なくない。だがそんな時は、神様との交わりの中で自分が砕かれていくことを感じるときでもある。「私は成長なんかしていません、同じ所をぐるぐる回っているみたい」と思っている人もいるが、その実、神様はらせん階段を登る様に、その人を確実に成長させて下さっている。それは神の深い憐れみでもある。その愛を感じながら私達は、今日も一歩、明日も一歩と階段を登るのである。

(H・F)

編集スタッフ

三宅 規之 田中 千香子
菅原 洋子 内田 信恵
日吉 成人 瀧上 博子
編集責任者 白石 禎男
事務局 中央聖書学校
豊島区駒込三一一五―二〇
FAXTEL 〇三―三九一八―四九二五
〇三―三九一八―四〇六四

シリーズ 献身 Vol.14



私の献身

田中 久美子

吉祥寺福音教会
事務職員

神学生たちが開いていた日曜学校に行き始めたのが小学校三年生の頃でした。初めて聞く聖書の話は新鮮で、すっかり気に入ってしまいました。特に天地創造の話は印象深く私の心の中に入っていました。

やがて神学生たちの伝道の働きによって、私の両親も含めて数名のクリスチャンが誕生し、私が中学生の頃に中央聖書教会が発足致しました。高校生の頃、勧められて教会学校の手伝いをするようになり、いつの間にか、子供たちへの働きを生涯続けていきたいとの願いを抱くようになりました。

社会人として働き始めてから、自分が持っている信仰の価値を再認識するようになり、業で、外から見ると華やかに見える職場に居てさえ、人々の心の中には、不満と醜い欲

とが渦巻いており、決して幸せでない現実を知ったからです。夢中になって聖書を読み、人々にも福音を語りました。語れば語る程、自らの無力さに打ちのめされていました。

そんな時、関東聖会で弓山先生のメッセージの中の「己の網を捨てて従う者はいないか」との招きに、私の心は高鳴り、平静ではいられなくなり、平気で人々の前に出ることを不得手な自分を見たと気持ちに鈍り素直になれません。悶々とした気持ちを抱えながら祈っている時に、「あなたの方のうちに働きかけられ、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」(ピリビ二章十三節)の聖言が明確に与えられ、実現させて下さるのが神様なら従う他はないことを知らされたのです。

私の献身によって、四年間祈りつつ導いていた職場の友が信仰の決心に至り、その後聖書学校に入り、現在同業者となっていてことは素晴らしい主の恵みです。

「子供たちを来させなさい」

中央聖書学校
三年 石津 真咲

今年の七月三日から八月二十三日まで北海道の千歳キリスト教会に派遣され、色々と学ばせて頂きました。私にとつては初めての長期派遣、「夏の北海道いいなあ」と羨ましがられつつ一体何が出来るだろうかと期待半分、不安半分で新千歳空港に降り立ちました。そんな私を沼田千晴先生と一緒に小学生の女の子二人が出迎えてくれました。

次の日からこの二人が毎日のようにやって来るにぎやかな生活が始まりました。学校が終わると先を争うように教会に駆け込んできては夕方まで遊んでいました。やがて友達を連れて来るようになり、弟妹を連れて来るようになり、その弟妹たちがまた友達と教会の中は子供たちの大騒ぎが繰り広げられ私は頭を抱えてしまいました。このまま子供たちとやっていけるだろう

か、彼らに対してどう付き合っていくべきなのでしょう。ある時、祈りの中で「神様が子供を教会に送って下さっている」と示されました。何が出来たのかと不安を抱いて千歳にきていた私の前に神様は子供たちを送って下さった、その導きにただひれ伏す思いでした。悔い改めて、私なりに精一杯子供たちと共に神様に近づいていこう、と気持ちも新たに再び子供たちと関わり始めました。不思議と子供たちに対する愛情が増し頭の痛かった午後の時間が楽しみの時間と変わっていき、子供たちはこちらがそうするのを待っていないかのように、イエス様の話を聞きたがり、聖書を読み、共に祈るようになりました。

さらにキャンプにおいて、最初に空港で出会った二人の子がイエス様を信じたことと招きに応える姿を見させて頂くことができました。神様の御業の素晴らしさと恵みの大きさをほめたたえ、心から感謝いたします。

RIGHT GOSPEL IN THE NIGHT

ゴスペル・イン・ザ・ナイト
CBCの金曜日夜七時半と言えば「ゴスペル・イン・ザ・ナイト」——神学生一人一人はその響きに、主が起し続けて下さっている新しい御業を感じずにはおれません。今回はCBCの学生伝道集会「ゴスペル・イン・ザ・ナイト」を紹介しします。

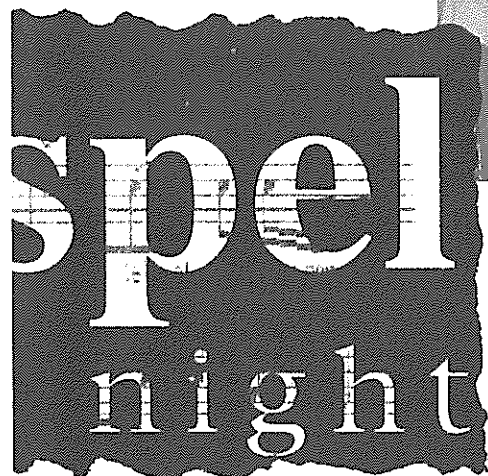
折りしも教団創立五十周年を迎えた今年度、CBCでは伝統となっていた中央聖書学校における学生伝道集会「聖書と賛美の夕べ」を改め、

ゴスペル・イン・ザ・ナイト

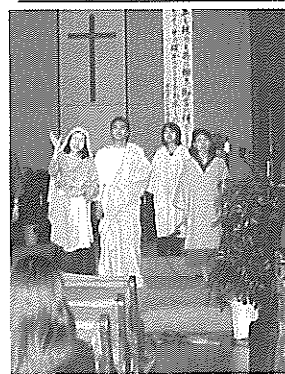


ジャズ・バンドなど様々で、毎週訪れる新来会者を主の住まいの賛美の流れに包み込んでいます。「CBCソング」と呼ばれるオリジナル賛美も作られ、各地域教会でも賛美されるようになりました。

スキットも好評を博しています。主は多様な愛されるゆえでしょうか、主に召し出された個性の強い神学生が俳優(俳優?)を演じ、笑いあり涙あり、時にはミュージカル風にも演出されます。



今や、それは芽生えている。(イザヤ 43:19)



メッセージ前に聖書の物語や福音のメッセージが、スキットを通して新来会者の心に自然と沁み込んでいくようです。

忙しい学生生活の合間を縫って伝道集会の練習をし、祈りを積み、又路傍伝道にも行きます。金曜の夕方になると路傍の各チームに分かれ、駒込駅前での路傍伝道、トラクト配布、個人伝道、公園でのユース・ミニストリー、子ども公園伝道、ホームレス伝道など実際に外へ出かけて行きます。

そういった伝道を通し、主は毎回三、四名の新来会者や求道者を送って下さっています。特に六月に行われた「ゴスペル・イン・ザ・ナイト・スペシャル」では、出席者九十七名、新来会者三十三名、決心者二十二名、再決心者八名が

PEL IN THE NIGHT GOSPEL IN THE NIGHT

☆☆☆ 教職インタビュー Vol. 6

堀川 寛 師

今回は、今年度から中央聖書学校の講師となられた、堀川師にお話を伺いました。

先生の若々しい柔軟な発想と、親しみやすい人柄、また聖書への限りなき探求心は、公私にわたり、学生達に感動と関心を与えて下さいます。今年度は前期において「ヨハネ福音書」「共観福音書」、後期において、「新約神学概論」「新約聖書背景」を教えて下さっています。

新聞部：先生の授業は、大変ユニークで楽しいという定評がありますが、先生が講義をされる上で、学生に一番感じとして欲しいと言う事は何でしょうか？

堀川師：そうですね…。自分は何も知らないと言う事を知る事かな。そして自分の考え方を硬直させない事。その為には幅広い物の考え方が出来るよう、チャンネルを沢山持って他人にプレゼンテーション出来るような道筋を持ってもらいたいですね。また聖書の楽しさを感じとる事。聖書を読む事は快楽であり、奥が深く楽しい事なんだなあという事を感じ、エネルギーにして欲しいですね。

新聞部：CBCの学生は個性的な人間の集まりだと思うのですが、先生が神学生だった頃は、先生はどんな学生でおられたのでしょうか？

堀川師：いろんな事をしました。基本的に神学校生活を楽しんでいましたね。ここで学んだ事で一番大切な事は「人間は人間を裁いてはいけない」という事ですね。

新聞部：なるほど…よく分かります。では、そんな先生はその頃何かビジョンをお持ちだったのでしょうか？

堀川師：ビジョン…？ビジョンとか、それほど特別には考えていませんでしたね。でもある先生に出会って、聖書を勉強するという喜びを味わって、その時聖書を教える仕事がしたいと思いました。それがビジョンかなあ。

新聞部：今はどうですか？

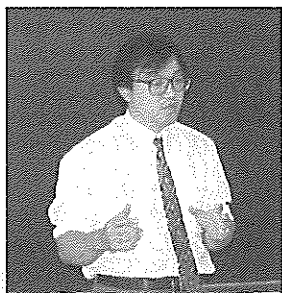
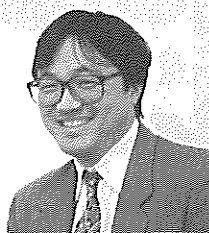
堀川師：そうですね、テレビの伝道番組をつくりたいなあ。アニメとか入れたりしてね。

また自分が学んだ事思っている事なんかを、本にまとめてみたいです。

新聞部：そうですか。すごく楽しみです。それでは最後に、現在の学生やこれから献身しようとしている若者に向かって、メッセージをお願いします。

堀川師：伝道者としてプロになって欲しいという事、その為の研鑽を積む事を忘れない事。ありとあらゆるジャンルの本を読み、できるだけ多くの人に逢う事。

「鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。」(箴言 27 : 17) の御言葉にあるように、神学校にいる間に一杯喧嘩して、理解しあって、相手を受け入れる事を学んで下さい。そして楽しむ事。楽しむ事はいい事だ！



THE NIGHT

GOSPEL IN THE NIGHT



「ゴスペル・イン・ザ・ナイト」と名付けました。名称を変えただけではなく、学生を三チームに分け、それぞれのチームが司会者、メッセンジャーと共に話し合い、祈りと練習を積み、特色ある伝道集会をプログラムしています。救いの証し、スペシャル賛美、スキット、そして伝道メッセージと充実した内容で、学生たちのユニークな手作りの伝道集会が毎週開かれています。

スペシャル賛美は、フルバンド、管楽器演奏、聖歌隊、ゴスペル、

見よ、新しいことをわたしは行おう。

起こされました。ハレルヤ！学生一同、主の尊い救いの御業をたたえずにはおれませんでした。

七、八月の夏期派遣後も継続して新来会者が来られています。十月にはホームレスの方が二名、受洗の恵みに与りました。主に出会い、新しく人生が変えられたという力強い証しを聞くことが出来ました。

このような主の尊い救いの御業を拝し得るのは、諸先輩の積まれてきた祈りや伝道活動における実であることを覚えます。また全国の諸教会の篤き祈り、実際の捧げ物を心から感謝します。



現在も毎週行われており、特に十二月の「ゴスペル・イン・ザ・ナイト・クリスマス」に向け、魂の救いのために一つとなつて祈り、準備をしています。学伝を通して救われる方々が起こされ続けていることを心から感謝せずにはおれません。また同時に、「救霊のために」という召命を、学生伝道集会を通して新たにされていることも感謝します。



中央聖書学校学生募集

主の御声を聞いている者よ、来なれ！
 入学資格：受洗後2年以上を経た忠実な教会員
 高校卒業以上
 住所：〒170-0003
 東京都豊島区駒込3-15-20
 電話番号：03-3918-4925
 ※入学案内は学校事務所にお申し出下さい。

駒込山に吹く聖
 霊の風が、諸教会
 に流れて出ていく
 ことを願ってやみ
 ません。

GOSPEL IN THE NIGHT GO